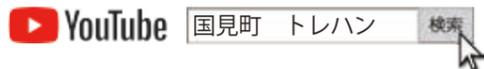


各ユニットからの

ユニークな5つの提案

動画配信サイト YouTube に報告会の動画がアップロードされていますので、ぜひご覧ください。



UNIT A 藤田地区

国見流「侍」養成プログラム！

源宗山に残る昭和の街並みや藤田城跡などの空間資源を活用し、「ないものは自分で作る」という自給自足生活を体験するプログラムを提案。

UNIT B 小坂地区

優勝

村ぐるみでおもてなし「お宿小坂」

宿場町としての歴史の面影が残る風景と、子どもを地域ぐるみで大切にす小坂地区全域を一つの宿に見立て、村ぐるみでのおもてなしを提案。

UNIT C 石母田地区

空家を活用して「共同生活」&「訓練」の場を創出！

地区に点在する特色ある家屋（空家）を活用し、若者が「共同生活」を送りながらやりたいことを実現する「訓練（学び）」の場づくりを提案。

UNIT D 貝田地区

まち丸ごとサービスエリア「貝田 S A」

国見サービスエリアと貝田地区の町民のホスピタリティを活用し、地区を丸ごとサービスエリアに見立て、高速道路利用者の誘客を提案。

UNIT E 川内・西大枝地区

くねくねカートバトル川内杯！

水路によって形成されたくねくねした「道」を活用し、ゴーカートレースなどのイベントを開催して、国見町の存在認知と知名度向上を提案。

参加者の声

UNIT D メンバー
上神田 健太さん



トレジャーハンティングに参加して、国見町には自分が気付かない魅力がまだまだたくさんあると分かりました。特に「貝田SA」の視点は目からうろこで、新たな価値に気付くことができました。その価値にアレンジを加えていくことで、新しいまちづくりにつながっていくのではないかと思います。



1 2 3 4 5 (番号順に) UNIT A、B、C、D、E によるユニークなプレゼンテーション 6 参加者全員で記念撮影 7 優勝した UNIT B のみなさん 8 9 まち歩きワークショップの様子



場から返答するなど、ライブ感あふれる視聴者参加型の報告会となりました。

「ほしい」から「やりたい」へ
くくろージングトーク

報告会終了後、今回のイベントを企画する株式会社リノベリング代表の嶋田洋平氏をはじめ、大島芳彦氏、西村浩氏のほか、東北芸術工科大学の竹内昌義教授、事業企画プロデューサーの吉野智和氏ら5人によるトークセッションが行われ

ました。

5人は、各ユニットの提案について総括し、歴史と産業によって作られてきた国見町の「風景（お宝）」を絶賛。しかし、トレジャーハンティングの本質は、「提案内容の質」ではなく、まち歩きをしながら、今あるものを「資源」として再認識することによる「シビックプライド」の醸成にあると言います。

く、自分は「これをやりたい」という「当事者」意識が重要と指摘。今後、その「当事者」を町内外に増やしていく必要があるとしたうえで、国見町が持っている可能性・ポテンシャルの高さに大きな期待を示し、この2日間で獲得した「戦利品」を全体で共有しました。

私たちにとって当たり前前の景色の中にも、こんなにも「お宝」はあふれています。あなたもまちの「お宝」を探してみませんか？

※シビックプライド…都市や地域に対する愛着や誇りのこと。



トレジャーハンティングとは

トレジャーハンティングは、普段の生活では気づかない、このまちに眠っている資源や魅力を、さまざまな分野の第一線で活躍する「トレジャーハンター」と一緒に発掘し、その「お宝」の活かし方使い方を考え、自分たちのまちの未来や暮らし方を提案するイベントです。

いざ、宝さがしへ

1 日目は、実際に町内を歩いて地域の資源を再発見する「まち歩きワークショップ」が行われました。参加者は5つの「ユニット」と呼ばれるグループに分か

白熱のプレゼンバトル

2 日目は、各ユニットがまち歩きワークショップで見つけた「お宝」の新しい活用法を検討・提案する報告

れ、藤田、小坂、石母田、貝田、川内・西大枝の5地区を隈なく散策しました。それぞれのユニットは、地理的条件や建築物、産業の特色などから各地域の成り立ちを紐解き、また、地域のみなさんに聞き取りを行いながら、次々と「お宝」を発掘。普段、私たちが何気なく生活している「当たり前」の景色も、ハンターらの手にかかれば、新鮮で魅力的な「お宝」に変身していきました。

まちのトレジャーハンティング@国見町が1月13日から14日の2日にわたって町内で行われました。県内初開催となったこのイベントには、県内外から33人が参加し、5人の「トレジャーハンター」とともに、まちの「お宝」の発掘に挑みました。

まちの「お宝」を発掘しよう。